

# 教育文化学部の報告

杜 威

平成20年12月12日

# 一. 学生関連

平成20年(5月現在)留学生受入れの現状

計40名、うち

大学院生5名

学部生5名

日本語・日本文化研修生1名

特別聴講生17名

科目等履修生9名

研究生3名

出身国・地域: 米国、韓国、中国、台湾、モンゴル

# 過去5年間留学生受入れ実績の推移

各年の4月または5月現在

平成15年 25名

平成16年 35名

平成17年 27名

平成18年 28名

平成19年 33名

出身国・地域：米国、韓国、中国、台湾、モンゴル  
オーストラリア、ベトナム、インドネシア、フィリピン、  
オマーン、ドイツ、ブラジル、ペルー、パラグアイ

# 協定校等への派遣実績

平成20年 3名

過去5年間の実績：

平成15年 5名

平成16年 6名

平成17年 8名

平成18年 10名

平成19年 5名

派遣先：セント・クラウド州立大学、  
グリフィス大学、オークランド工科大学、  
黒竜江大学、国立ハンバット大学、  
圓光大学、（大連、龍華）

# 特徴

- 受入れが多い
- 学部レベルの留学生が多い
- 私費留学生が多い
- 特別聴講生など非正規生が多い
- チューターの期間が長い
- 大学の立地条件がよい

## 二. 教職員関連(研究交流など)

- 交流協定校訪問
- 国際会議やシンポジウムの開催
- 外国人研究員などの受入れ
- 海外来訪者の受入れまたは上陸許可申請手続き等における世話

## 三. 課題

- 協定校以外からの留学生が少ない
- 派遣学生が少ない
- 大学院に来る留学生が少ない
- 留学生に対する経済的な支援が足りない  
(奨学金、学費免除、住まいなど)
- 留学生や日本人学生及び地域社会間の交流が少ない

## 四. センターに対する期待

- 国際交流関連業務の一元化  
学部の窓口がセンターの末端組織とする。
- 検討してほしいこと  
特別コースの開設  
入学時期  
奨学金の問題  
宿舎の問題  
研究者交流に対する支援  
などなど